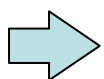


【現状】

- ・近年、我が国の海洋生物資源の確保に関する問題意識が高まっている。例えば、2010年3月には、ワシントン条約締約国会議でクロマグロの国際取引禁止が議論されるなど、気候変動や乱獲等による海洋生物資源の枯渇が懸念されている。
- ・海洋生物資源の安定供給を持続するためには、海洋生物資源の確保技術を高めていくことが必要である。
- ・しかし、このための**共通基盤的な研究開発は、十分には行われておらず**、国民ニーズの高い海洋生物資源を確保するためには、**海洋科学技術の振興の観点から、基盤研究についても政策として実施**することが必要である。



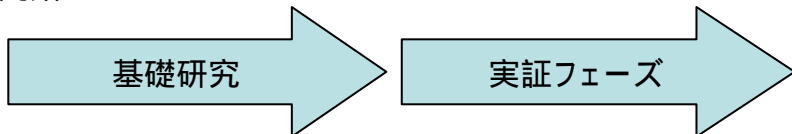
海洋生物の**生理機能を解明し、革新的な生産につなげる研究開発**や海洋生物の正確な資源量予測を行うための**生態系を総合的に解明する研究開発**を行うことで国民の期待に応える。

競争的資金による「海洋生物資源確保技術高度化」の実施

【本事業の特徴】

- ・魚介類の世代交代には時間がかかるため、長期的・継続的に研究を実施する必要があり、人材育成の観点からも、支援期間は5～10年程度とする。

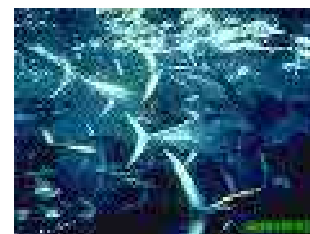
開始 2年～5年 5年～10年



- ・任期付研究員として、助教から准教授クラスの人材を確保するとともに、実験用大型生けす等の特殊な設備整備費の措置も可能とする。
- ・1件あたり年間5千万～1億円程度とするも、課題の規模や進捗段階に応じた規模にできるものとする。

【研究開発課題のイメージ】

- ・革新的な生産につなげる研究開発
- ・様々な海洋生物へ応用可能な基盤的研究開発。
- ・既存の養殖技術等にはない、革新的な技術の研究開発。



海洋生物群



生態系を総合的に解明する研究開発

- ・海洋生物資源を育む海洋環境やその他の生物種との関係など、生態系全体の仕組みを解明するための研究開発。

【関連省庁との関係】

- ・文部科学省は、科学技術・学術の振興という観点から、農林水産省など関連省庁と連携しつつ、魚種に限定されない共通基盤的な研究開発や基礎的な研究開発を実施。